

牛久：学校周辺に見る自然

第6号

ひたち野うしく小，中根小，牛久二小，牛久二中

2010年5月17日発行

<マメ科の仲間 その①>

今回も、中根小4年生、ひたち野うしく小3年生の春の観察の続きです。今回は、マメ科の仲間。中根小では皆さん落花生を育てたようですが、その仲間です。色や大きさは違っても、花の形はよく似ていましたね。今回観察されたもの以外にも、各校その他で撮ったマメ科の仲間も紹介します。

①カラスノエンドウ



②レンゲソウにセイヨウミツバチ



左はカラスノエンドウ。どこの校庭でも観察される草本の一つです(写真は牛久二小)。実は熟すと黒くなるので「カラスノ」ということのようにです。右はレンゲソウで、家で借りている市民農園で撮影しました。中国原産ですが、緑肥として田畑に栽培されます。たくさんのミツバチが来ていました。

③シロツメクサにニホンミツバチ



④アカツメクサにセイヨウミツバチ



左はシロツメクサ(ひたち野うしく小)。これもどこの校庭にも普通に見られますね。ヨーロッパ原産で、19世紀に日本にやってきたオランダ人たちが、ガラス器を入れた箱にクッションとしてこれの枯れ草を詰めていたため「白詰め草」と名付けられたそうです。右はこれとよく似たアカツメクサ(牛久自然観察の森)。これもヨーロッパ原産で「レッドクローバ」として栽培されていたものが野生化したといわれています。似てはいてもよく見ると結構違いがあり、別の種であることが分かります。それにしても、マメ科の花にはミツバチがよくやってきますね。捕まえたり巣をつついたりしなければ刺されることはまずないので、安心して近くで写真も撮れます。スズメバチやアシナガバチの仲間のように怖いハチもありますが、そうでない大人しいものもいるのです。

【理科支援員・宮内】